

III. 刊行報告書抄録

第204集 寄島遺跡

寄島遺跡は、安城市東部を南北に流れる鹿乗川流域に形成された多数の遺跡のうちひとつである。本遺跡は、北に姫下遺跡、南に下懸遺跡が古くから知られていたが平成18、23～25年度にかけて発掘調査が行われ、92基の竪穴建物跡、6基の掘立柱建物跡をはじめとする多数の遺構が検出され、その主体は弥生時代から古墳時代前期にかけての集落遺跡であることが確認された。その集落範囲は南北約400mの紡錘形をした微高地上に立地しており、注目されるのは居住域の南側低地に方形周溝墓3基と方墳（07C区3001SD・11A区029SZ）が存在することである。

出土遺物の整理作業は平成26・27年度に実施し、1255点の土器・土製品、206点の木製品を資料化し報告書に掲載した。なお石製品は42点と少ないが、古墳周溝から出土した管玉の他に、居住域で出土した棒状の摺石が大半を占めている点が注目される。これに関連して土器では竪穴建物跡の埋土から小型の鉢が出土しており、内面に赤色顔料が付着している事例が多数みられる。

（永井邦仁）



寄島遺跡の出土遺物

報告書抄録

ふりがな		よせじまいせき						
書 名		寄島遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第204集						
編著者名		永井邦仁、樋上昇、川添和暁、鬼頭剛、宮腰健司、藤根久、株式会社パレオ・ラボAMS年代測定グループ						
編集機関		財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2017年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
よせじまいせき 寄島遺跡	あいちけん あんじょうし 愛知県安城市 おがわちょう 小川町	23213	540124	34度 54分 30秒	137度 05分 45秒	2007.10.22～ 2008.3.21 2011.5.9～ 2011.9.26 2012.9.10～ 2013.3.1 2013.11.1～ 2014.3.19	3,465 2,135 3,000 2,110	中小河川 改良工事 (鹿乗川)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
寄島遺跡	集落	弥生時代後期、 古墳時代前期、 平安時代、 鎌倉時代	掘立柱建物跡、 竪穴建物跡、溝、 井戸、旧河道、 墳丘墓、方形周溝墓		弥生土器、土師器、 須恵器、灰釉陶器、 木製品、磨石、瓦、 墨書土器		旧河道の木製品、 多量の鉢形土器	
文書番号		発掘届出(19埋セ81号・2007.9.20、23埋セ2号・2011.4.1、24埋セ69号・2012.8.9、 25埋セ85号・2013.10.2) 通知(19教生1792号・2007.9.20、23教生132号・2011.4.14、24教生1310号・2012.8.31、 25教生1982号・2013.10.18) 終了届・保管証・発見届(19埋セ121号・2008.3.26、23埋セ88号・2011.9.27、 24埋セ129号・213.3.7、25埋セ152号・2014.3.25) 鑑定結果通知(20教生282号・2008.5.2、23教生1766号・2011.11.9、 25教生158号・2013.4.16)						
要約	本遺跡は、鹿乗川流域の沖積低地に立地する弥生時代後期～古墳時代前期の集落を主体とする遺跡である。自然堤防の頂部では、竪穴建物跡92基、掘立柱建物跡6基などを検出した。また、集落の南端では方形周溝墓3基とそれらを凌駕する墳丘墓1基があり、当該集落首長層の墓と推測される。そして、集落の北限と南限は鹿乗川の旧河道によって北の姫下遺跡、南の下懸遺跡と区切られ、旧河道からは建築部材などの木製品が多数出土している。そして北限の旧河道左岸ではくり抜き井戸側が検出され、姫下遺跡の範囲に相当するとみられる。一方南限の旧河道左岸は下懸遺跡の集落範囲に相当し、古墳時代初頭の土器が多量に出土している。なお、集落内の竪穴建物跡からは赤色顔料の付着した鉢形土器が多く出土し、集落内での祭祀などに使用されたものと考えられる。							

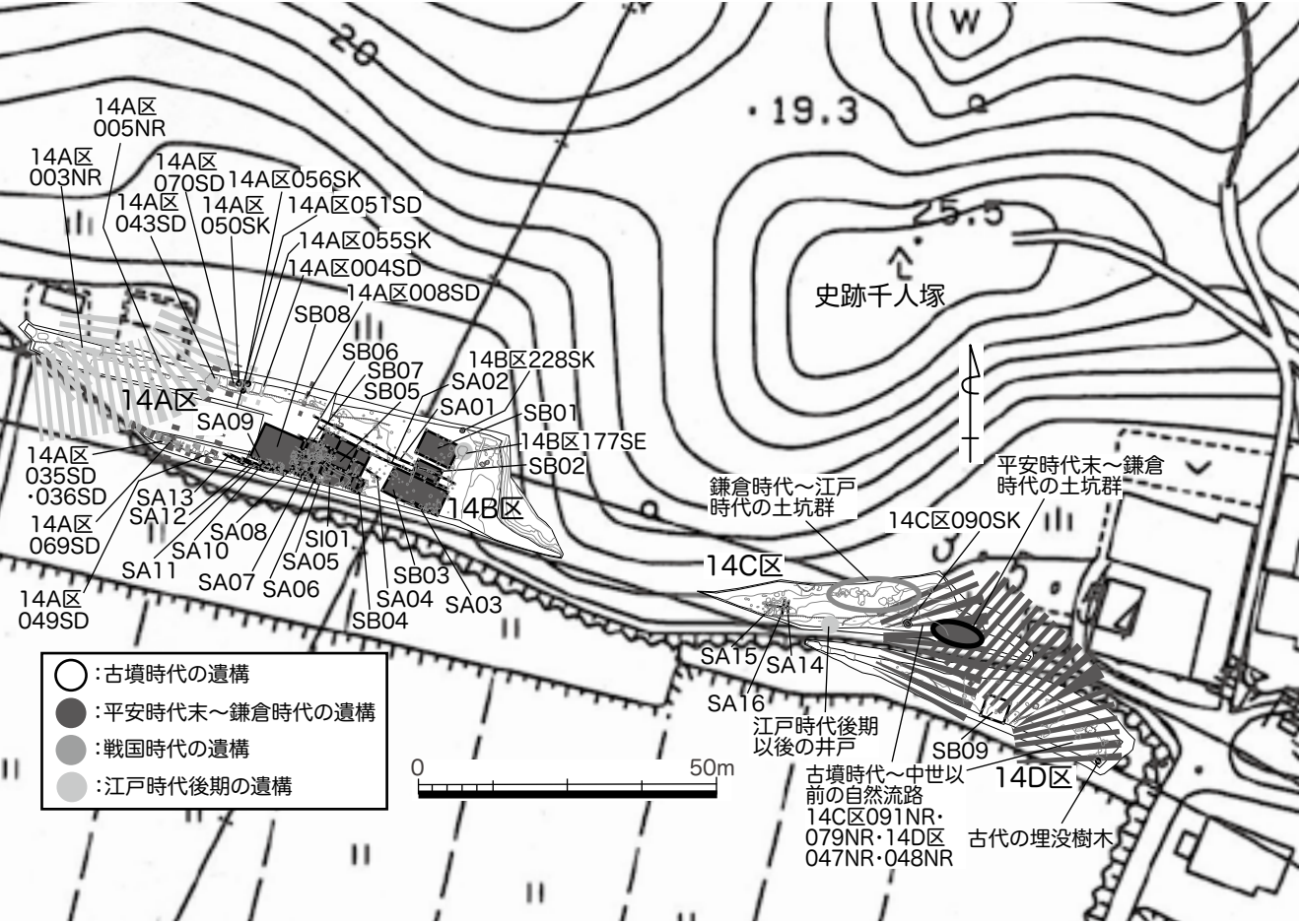
第207集 権六遺跡

権六遺跡は、愛知県知多郡美浜町大字野間字権六に所在する複合遺跡で、平安時代末～鎌倉時代を主体とする集落遺跡である。

本報告では、古墳時代前期後半の掘立柱建物1棟・土坑1基、平安時代末～鎌倉時代の竪穴建物1棟・掘立柱建物8棟・柱穴列16条・溝5条・土坑多数・自然流路2条、戦国時代の溝3条・土坑2基、江戸時代後期～近代の井戸1基、溝3条、土坑5基、自然流路2条などを抽出し、その変遷を示した。遺跡の中心時期である平安時代末～鎌倉時代については、史跡千人塚のある丘陵の西側にある14A区と14B区では、西を南北にのびる溝で区画し、その東側を柵と考えられる柱穴列2条と、掘立柱建物や竪穴建物などが配置される様子を示した。また出土遺物には、知多半島の古窯において在地生産された碗・小皿・壺・甕・片口鉢などとともに、搬入された青磁、滑石製石鍋片などが出土し、広域流通品の出土も注目される。

当遺跡と同時代に存在した大御堂時（野間大坊）が当遺跡の西約1kmの位置にあり、当地域が所属した安楽寿院領の野間内海荘を考える上で貴重な資料になるものと思われる。

（蔭山誠一）



権六遺跡の主要遺構 (1:1,250)

報告書抄録

ふりがな		ごんろくいせき						
書 名		権六遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第207集						
編著者名		蔭山誠一、鬼頭剛						
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所 在 地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2017年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ごんろくいせき 権六遺跡	あいちけん ち た ぐん 愛知県知多郡 み はまちようおおあぎのま 美浜町大字野間 あぎごんろく 字権六	23446	490119	34度 46分 25秒	136度 51分 44秒	2014.10.1～ 2015.3.20	2,400㎡	県道野間 河和線建 設に伴う 発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
権六遺跡	集落	古墳時代 前期・ 平安時代 後期～ 鎌倉時代・ 戦国時代・ 江戸時代	掘立柱建物・柱穴列 ・竪穴建物・井戸・ 土坑・溝・自然流路		弥生土器・土師器・ 須恵器・灰釉陶器・ 灰釉系陶器・常滑産甕・ 施釉陶器・打製剥片石器 ・滑石製石鍋・柱材			
文書番号	発掘届出(26埋セ第65号・2014.8.27) 通知(26教生第1531号・2014.9.5) 終了届・発見届・保管証(26埋セ第133号・2015.3.9) 鑑定結果通知(27教生第1290号・2015.8.12)							
要約	古墳時代前期の掘立柱建物・土坑、平安時代後期から鎌倉時代にかけての掘立柱建物・柱穴列・溝・土坑などの遺構が確認できた。特に平安時代末から鎌倉時代の遺構と遺物は、区画溝で区画された内側を柱穴列で区画した屋敷地縁辺部の様子を示すものと考えられた。本調査地の北にある丘陵上には、平安時代末に野間で最期を遂げた源義朝公の伝説が残る美浜町町史跡である千人塚があり、その関連性が想定される。平安時代後期から鎌倉時代にかけての野間地域の歴史を解明する上で、貴重な資料になるものと思われる。							

第208集 東小笹遺跡

東小笹遺跡は平成26年度に範囲確認調査と本調査、同27年度に範囲確認調査を実施した。発掘調査においては、浅い落ち込み（緩傾斜面）や谷状の落ち込み、近世以降の遺構以外、明確な遺構は検出されなかった。遺跡のかなりの部分はすでに削剥され、滅失している可能性が高いと推察される。遺物は浅い落ち込み（緩傾斜面）に堆積した古代を中心とする遺物包含層、近世以降の整地層中から少量が出土したのみであった。7世紀の古墳の存在を示唆する遺物も認められるが、遺跡周辺における古墳の存在を想定することは難しい。なお、遺跡南端付近には真言宗宝隆院の境内地が含まれていたとされるが、関連する遺構、遺物は何ら認められなかった。

（早野浩二）



東小笹遺跡の調査区配置



遺跡周辺の地籍図

報告書抄録

ふりがな		ひがしこざさいせき						
書 名		東小笹遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第208集						
編著者名		早野浩二・鬼頭剛						
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2017年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ひがしこざさいせき 東小笹遺跡	あいちけん とよたし 愛知県豊田市 こしどうひがしこざさい 越戸町東小笹・ かみにしこざさい 上西小笹	232114	630547	35度 06分 46秒	137度 11分 00秒	2014.05.20～ 2014.9.29 2015.05.11～ 2015.05.15	2,100 30	国道153号 豊田北 バイパス 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
東小笹遺跡	集落	縄文時代 古墳時代 奈良時代 鎌倉時代 江戸時代	落ち込み 溝、整地層		石器 土師器、須恵器、 鉄製品 土師器、須恵器、 土製品 山茶碗 近世陶器、 石製品、土製品		鉄鏝の出土	
文書番号	発掘届出(26埋セ第6号・2014.4.8、27埋セ第2号・2015.4.6) 通知(26教生第976号・2014.4.17、27教生第169号・2015.4.20) 終了届・保管証・発見届(26埋セ第86号・2014.10.15、27埋セ第22号・ 2015.5.22) 鑑定結果通知(26豊教文第2415・2014.10.27、27豊教文第702・2015.6.8)							
要約	発掘調査においては、浅い落ち込み（緩傾斜面）や谷状の落ち込み、近世以降の遺構以外、明確な遺構は検出されなかった。遺跡のかなりの部分はすでに削剥され、滅失している可能性が高いと推察される。遺物は浅い落ち込み（緩傾斜面）に堆積した古代を中心とする遺物包含層、近世以降の整地層中から少量が出土したのみであった。7世紀の古墳の存在を示唆する遺物も認められるが、遺跡周辺における古墳の存在を想定することは難しい。なお、遺跡南端付近には真言宗宝隆院の境内地が含まれていたとされるが、関連する遺構、遺物は何ら認められなかった。							

